

発掘ニュース

第 35 号

平成 4 年 12 月 22 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

TEL 0246 (29) 0349

TEL 0246 (29) 0391

中倉 B 遺跡発掘調査の成果

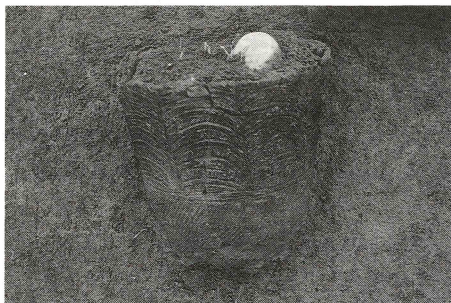
— 縄文時代の住居跡を多数検出 —

中倉 B 遺跡は、東北横断自動車道と常磐自動車道の分岐点予定地から北西に 3 km ほどの山あいに位置しています。地形は東向きの尾根の先端部にあたり、この台地を回りこむように溪流が走っています。私たちには一見住みにくそうなこの台地の上から、30 棟以上もの竪穴住居跡が発見されました。

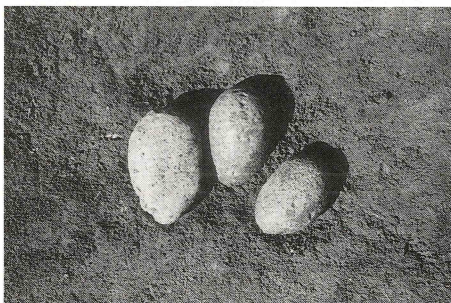
見つかった住居跡は、いずれも縄文時代早期末～前期初頭（約 6 千年～7 千年前頃）といわれる時期のもので、いくつも重なり合った状態で検出されました。このことから、何世代にもわたってこの集落が営まれていたことがわかります。いわき市内でこの時期の住居跡がこれほどまとまって見つかった例はなく、人々がこの頃から定住生活を始めるようになったことを裏づける上でも、たいへん貴重な発見となりました。また、狩りに使った石の矢じり、石の斧、木の実をすりつぶすための石の道具、煮炊きに使用した土器なども多く発見され、豊かな山の暮らしぶりをうかがい知ることができました。



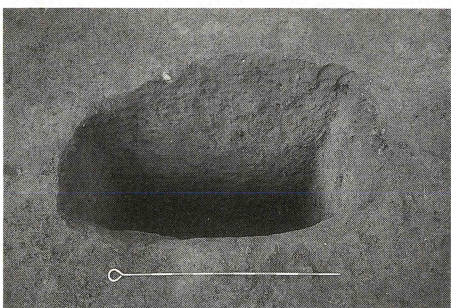
中倉 B 遺跡全景



住居跡出土の縄文土器



磨石



陥し穴

【遺構と遺物】

今回の調査では多数の遺構・遺物が発見されましたが、その一部を紹介します。

22号住居跡からは縄文土器がほぼ完全な形で出土しました。ほとんどの住居が地床炉じしょうろといわれる炉を持っており、そこで煮炊きに使ったものと考えられます。

また、木の実などをつぶすのに使用した、たたきいし すりいし 敲石や磨石などの調理具も住居跡から見つかっています。

調査区の南側では、土坑どこうといわれる穴の中から平安時代の土器や鉄滓てつさいが出土しており、平安時代になって再び本遺跡が活用されたことがわかります。

その他には、けものをつかまえるための陥し穴（落とし穴）も見つかっています。時期は平安時代以降のものと考えられています。深さは1.9mもあり、人間でもはい上がることは困難です。



/// 中倉B遺跡現地説明会のお知らせ ///

今回の調査の成果を広く皆さんに知っていただくために、現地説明会を以下のとおり開催いたします。ふるってご参加下さい。

日 時 平成4年12月26日（土）午前10時から

場 所 中倉B遺跡現地（いわき市内郷高野町字北作地内）

問い合わせ 財いわき市教育文化事業団 ☎0246-29-0391